



「キズ」の科学

「消毒」と「乾燥」は
傷の治りを
遅らせる！？

医療
豆知識

26

小さいころ外で遊んで、転んだり、ぶついたりしてあちこちに「キズ」をつくった記憶は誰にでもあるでしょう。そんなとき、「消毒」して、赤チンぬって、ガーゼして「乾かす」……というのが常識でしたよね。

ところが、最近、「消毒」や「乾かす」のは、「キズ」の回復を遅らせるので「消毒せず」「乾かさな」という方法がテレビや新聞でも話題となっていてます。理由はいかん？

まず、「傷が治る」とはどつどついうことでしょうか？ 簡単に言えば、「(何かの理由で)無くなってしまった皮膚の細胞が増える」といえます。

「消毒」は「ばい菌」も殺しますが、実は「皮膚の細胞」も傷つけてしまいます。また、「皮膚の細胞」という「生き物」は、水分が無い状態では増えることはできません。したがって、「乾かす」という行為は傷の治りを「邪魔」しているのです。ガーゼでおおうのは、水分を乾かしてしまおう上に、ガーゼをはがすときにせっかく増えてきた「皮膚の細胞」もはぎ取ってしまうので問題です。(しかも、

痛い！ですよ。(

そこで、今新しい治療法として注目されているのは「消毒」の変わりに、「水でよく洗い」傷を「乾かないように覆ってしまう」という方法です。



「消毒」しないとばい菌が増えてしまうのでは？と思方もいるかもしれませんが、ばい菌が増えるための「巣」(＝どろ、あかなどの異物)さえなければ、ばい菌はふえることが出来ない

のです。だから、水で傷の汚れをしっかりと落とせばよいのです。次に、くっつかない材料(台所のラップでも可)で「キズ」をおおえば傷は乾かず、「皮膚の細胞」が増えるのを助けます。また、せっかく生えてきた「皮膚の細胞」をはがしてしまふこともありません。(☆最近では、薬局で乾かない素材の絆創膏もつられています。値段は少々高めですが、)当診療所でも、この新しい方法を徐々に取り入れつつあり、傷の治りも従来の方法より早く痛みも少ないため患者さんにも喜ばれております。皆さんも「キズ」を作ったら一度お試しください。

【「どぶき共同診療所医師・鈴木伸」

発行 ことぶきりょうはんつうしんしゃ
寿医療班通信社

横浜市中区松影町
3-11-2-402
NPO 法人訪問看護ステーション
コスモス寿気付

発行日
2005年8月28日

第 46 号